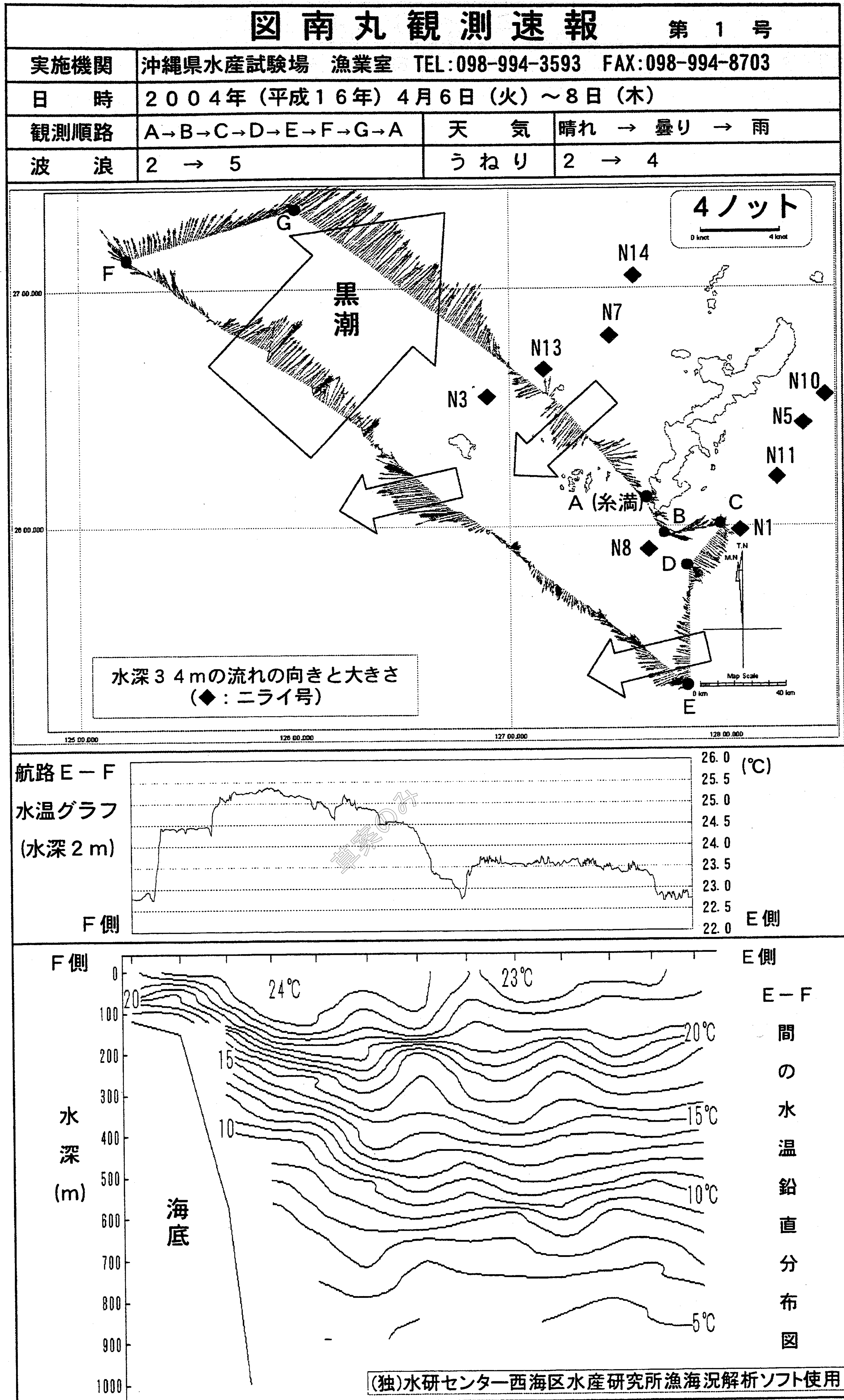


[具体的なデータ]



[その他]

研究課題名 : 資源評価調査委託事業、海洋動態解析事業、新漁業管理制度推進情報提供事業
 予算区分 : 委託事業、国庫補助事業
 研究期間 : 平成15年度
 研究担当者 : 下條 武
 発表論文 : 該当無し

調査船「凶南丸」による沖合定線観測結果の速報							
〔要約〕水産試験場調査船「凶南丸」による沖合定線観測について、ADCP観測、STN観測、CTD観測データの処理を迅速化し速報する。							
沖縄県水産試験場・漁業室				連絡先	098-994-3593		
部会名	水産	専門	海洋環境	対象	海況	分類	指導

〔背景・ねらい〕

水産試験場調査船「凶南丸」は、沖縄本島南方海域から沖縄トラフを横断し、大陸棚斜面にいたる沖合定線について、ADCP観測、STN観測、CTD観測を年6回（3月、4月、6月、8月、10月、11月）実施しており、当該海域の流況や水温鉛直分布を把握することができる。本県の代表的漁業であるパヤオ漁やソデイカ漁の漁況は、流況や水温などの海洋環境に左右されると考えられるため、漁業者への海況情報提供は、漁場探索で有効な情報となる。

〔成果の内容・特徴〕

- ①観測後、凶南丸観測速報（図1）を速やかに作成し、関係漁業団体（51団体）へFAX送付したほか、水産試験場ホームページにも掲載した。
- ②観測期間、観測順路、天気、波浪、うねりを示した。
- ③ADCP観測結果はSEA社製ADCPTracker、STN観測結果はMicrosoft社製Excel、CTD観測結果は独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所製の漁海況解析ソフトVertTideで作図した。航跡上の水温と、水温鉛直断面図は、E-F線に対応させた。
 - ・ADCP：音波を水中に発射しその反射を利用して、水の流れの方向と大きさを測る機器。
 - ・STN：調査船で雑用水として取水した海水の水温塩分を連続して測定する機器。
 - ・CTD：鉛直方向の水温、塩分、クロロフィル、光量子量、pH等を連続して測定する機器。
- ④ADCP観測結果とSTN観測結果から推定される黒潮の流路を矢印で示した。他の推定される流れも、矢印で示した。
- ⑤沖縄県が設置した耐久性浮魚礁ニライを◆で図中に示した（NはNiraiの略称）。
- ⑥表層の流れと水温及び、水温の鉛直断面図から、3次元的な海況判断ができる。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①流況図は潮汐成分を除去していない。
- ②水温鉛直断面図の判読では、鉛直スケールと水平スケールに注意する。
- ③当场で実施しているパヤオ周辺でのマグロ類の遊泳行動調査結果と併せて、漁場探索に利用できるよう広報活動を進める。